

m の音



m の発音で問題があるのは、単語の最後に現れた時だけです。必要以上に長くのばしたり、強調したりするような発音が聞かれました。それによって u という余分な音が入ってしまうのです。例えば mam[u] (mam), tam[u] (tam), siedem[u] (siedem), był sam[u] (sam), na gitarze też gram[u] (gram), z nim[u] (z nim), czasem[u] (czasem), potem[u] (potem), razem[u] (razem) など。「白水社ポーランド語辞典¹⁸」の表記 (例えば sam [サム], siedem [シェデム], potem [ポ

¹⁸ 「白水社ポーランド語辞典」(2002)を参照のこと。

テム]) がこの現象を定着させるのに一役買ってしまっているのかも知れません。



ポーランド語の m の音は子音なので、そこにアクセントが置かれることはありません。開音節で現れるときには日本語の「ま」「み」「む」「め」「も」のように発音されます。しかしながら、語末に現れることもあり、その時にも開音節の m の音と同じように、短く発音する必要があります。



単語を音節に分け、最後から二番目の音節にアクセントを置くようにする練習が役立つかも知れません。



po - te - m[u]ではなく！ po-tem、また、cza - se - m[u]ではなく！ cza-sem など。

al-bum, ra-zem, te-le-gram, mu-ze-um, li-ce-um, wie-czo-rem, pro-gram, pro-blem, sie-dem, o-siem, po-je-cha-łem, zro-bi-łem, by-łem, za-pra-szam, u-czy-łam się.

もし一音節の単語であれば、最後の m を短く発音し、アクセントをおかないように心がけましょう。mam, sam, tam, czym, dom, wam, nam, z nim, tom, dym, dam, gram など。

ma - am, mi - im, mu - um, me - em, mo - om, my - ym というように、開音節と閉音節において m を全く同じように発音する練習も役に立つでしょう。